

# 学校と家庭をつなぐICTを活かした個別の教育支援の取組

－ 特別支援学級での実践を通して －

高森町立高森東小学校 教諭 中山 亜紀

キーワード：タブレット端末、持ち帰り、家庭との連携、支援の一貫性

## 1. 従来の課題

子どもの教育や支援において、学校と家庭との連携・協力は必要不可欠なものである。特別支援教育においては、障害のある子ども一人一人のニーズに対応した支援を効果的に実施するために、学校と家庭とが子どもの情報を共有化することが求められる。

情報共有の手段としては、連絡帳や学級通信、電話など様々であるが、言葉や文字を介しての情報だけでは、なかなかうまく伝わらないという状況を生み出すことも少なくない。特別な支援を要する子どもにとって、環境により支援の方法が異なることは、思考を混乱させてしまうこととなり、よりよい発達・成長へとつなげる上での課題であると考えられる。

## 2. 実践の目的

実際の子どもの情報を共有するために、子どもの様子を動画や静止画にして伝達することは、子どもの実態を明らかにするだけでなく、学習環境も伝達することができ、支援の一貫性を図る上で非常に有効な情報源となる。そこで、学校での子どもの様子を正確に伝達し、家庭からの情報を的確に収集するためにICTを活用することで、学校と家庭とが連携して支援の一貫性を図ることを目的とする。

## 3. 実践内容

### 3.1 対象学級

特別支援学級在籍の小学校第1学年女児である。入学当初、平仮名や数字の読みを指導することが必要であった。児童の特性に合わせた教材・教具の準備や声かけ等の工夫を行うこととした。

### 3.2 家庭との連携ツール

手書きの連絡帳に加え、学校での学習や生活の様子、教師の支援の様子を動画や静止画でタブレット端末に記録し、それにコメントを入れて家庭へ持ち帰らせた。家庭からも、それに対するコメントを書いてもらうようにした。また、家庭での様子も動画や静止画で記録してもらうことで、情報の共有化を図るようにした。

### 3.3 実践の様子

#### (1) 事前準備

実践の流れを図1に示す。タブレット端末は、軽くて取り扱いがしやすく、操作性が良いことを考慮しiPad miniを選定した。保護者には、年度当初に実践の趣旨を説明し、その後タブレット端末の操作練習をした。

#### (2) 記録の整理

動画や静止画は、写真1に示すようにタブレット端末のアルバム機能を活用して整理した。コメントはメモ機能を活用し、学校及び家庭からのコメント欄を設けた。どちらにも日付と同じファイル名を付けて保存した。

#### (3) 学校から届けた情報

写真2は、国語の視写をしている場面の動画撮影の様子である。文字を書く活動場面での支援の仕方を参考にってもらうことで、家庭学習での支援がうまくいくようになり、平仮名の定着が進んだ。算数では、数量関係を理解することが苦手であったため、カードやブロックを使用した支援の方法を動画で記録し持ち帰らせた。

写真3は、算数でのブロック操作の様子である。操作

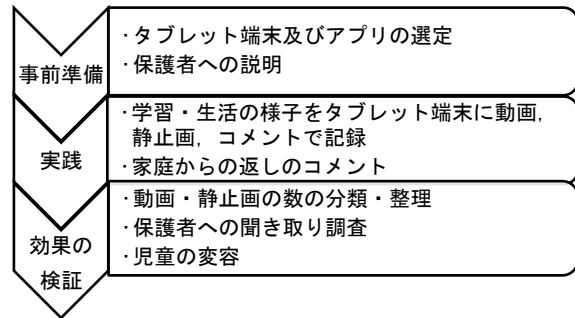


図1 実践の流れ



写真1 動画や静止画のアルバム



写真2 動画撮影の様子



写真3 算数の学習の様子

するときの声かけ等支援の様子を参考にしてもらうため動画に撮った。その結果家庭学習において保護者が困ることなく支援することができ、計算スキルが定着した。

体育では、マット運動の様子を届けると、保護者から「こんな技ができるようになったんですね。家でも一緒にやってみましたが、私はできませんでした・・・。」とコメントが返ってきた。また、水泳の様子から「顔をつけるのがやっとだったのにバタ足ができるようになり、上手になったねと話しました。」と、普段は知ることのできない親子のやり取りを知ることができた。

図工では、作品を静止画で記録することで、工作や粘土の作品など残すことが難しいものも、写真4に示すようにアルバムにして記録した。保護者から、家庭でも同じように作品をつくる様子を見て「はさみの使い方が上手になっていてびっくりしました。」とうれしそうなコメントが届いた。

#### (4) 家庭から届いた情報

写真5は、家庭での自転車練習の様子である。児童が「練習を先生に見せたい。」と話したことで保護者が動画に撮影した。教師は児童の家庭での頑張りを知ることができ、交流学級の友だちもそれを知る機会となり、児童の自信へとつながった。

写真6は、保護者が児童の家庭学習へ取り組んでいるところを撮影している様子である。このような動画が届くことで、取組の様子や保護者の支援の様子を知ることができ、つまずきが見られた課題は、学校でもう一度学習をすることもできた。その結果、家庭学習もスムーズに進むようになり、保護者からは「できるようになったね！すごいね！」と声をかけられ、児童も積極的に学習に取り組むことができ、学習内容の定着へとつながった。

### 4. 成果

学校と家庭との情報のやり取りを表1に分類・整理した。やり取りを始めた5月から9月までの授業日数は、82日。欠席等を除いて持ち帰りを実施したのは90%だった。学校から送った情報は静止画の方が多かったが、家庭からは動画の方が多く届いた。その理由としては、児童が家庭学習の様子を撮ってほしいという要望を出したため保護者が動画を撮影したことや、保護者がよりよい支援の仕方を知りたいと思ったことが挙げられる。学校が送った情報に対しての家庭からのコメントは毎回届いた。保護者への聞き取り調査を以下に示す。

- ・子どもは学校のことを自分で伝えることが難しい。また授業参観だけでは実際の様子がわからない。動画を見ることで実際の様子を知ることができるのでよい。
- ・持ち帰ったタブレットを子どもと一緒に見ることで、動画の説明をしてくれるようになり、学校のことを話すことができるようになってきた。
- ・宿題を教えるとき、どのような声かけをすればいいのか、どのように教えればいいのか分かるので、動画はいいと思う。
- ・宿題の様子を動画に撮ると、子どもの意欲も増し、学習をスムーズに終えることができて助かる。

以上の結果より、本研究の成果を以下に示す。

- ICTを活用し児童の情報の共有化を行ったことで、支援の一貫性を図ることができた。それにより学習内容を確実に定着させることができ、児童の自信へとつながった。
- 児童は、家族が授業中の自分の頑張っている様子や一生懸命に仕上げた作品を、家にいながらして見てくれることで、自分の頑張りを認めてくれることを楽しみ



写真4 図工の作品アルバム



写真5 家庭での自転車練習の様子



写真6 保護者が撮影している様子

表1 情報のやり取り

	授業日数	コメント	動画	静止画
学校	82	74 (90%)	55 (67%)	88 (10%)
家庭	82	74 (90%)	15 (18%)	6 (7%)

にしている。家族の温かいつながりや、家族全員で児童を支援する様子を知ることができた。

- 保護者から「先生がいつも子どもの頑張っている様子を伝えてくれるので、私も家で頑張っているところを伝えたいと思って動画を撮っています。」と話された。学校と家庭が深くつながっていることを実感した。

### 5. 今後に向けて

学校と家庭が支援の一貫性を図るため、ICTを活用した情報の共有を継続して実践したことにより、手書きの連絡帳と同様にタブレット端末を持ち帰ることが日常的なものとなった。児童はタブレット端末を持ち帰ることを楽しみにしている。今後も取組を継続して、学校と家庭とのつながりを深くし、児童のよりよい発達・成長へとつなげていきたい。